

評価計画を提示して見通しを持たせ、 振り返りの場も設けて、学びを継続できる力を育む

愛知県 尾張旭市立旭中学校

尾張旭市立 旭中学校 プロフィール

◎ 1947(昭和22)年開校。校訓は、「英知、誠実、健康」。教育目標に「凡事徹底 そして 自律・貢献へ」を掲げる。2018年度から愛知県「健康推進学校」の研究指定を受け、1年生からの系統的ながん教育などに取り組み、2020年度文部科学大臣表彰を受賞。

校長 浅野謙一先生
生徒数 864人
学級数 27学級
(特別支援学級3)
電話 0561-53-2910



英語科

評価基準・基準を事前に提示し、 生徒の学習意欲を高める

愛知県尾張旭市立旭中学校で3学年主任を務める彦田泰輔先生と、校務主任の白木圭先生は、以前の勤務校で田中博之教授の研修を受けてから、担当教科の学習評価にルーブリックを取り入れてきた。中学校の新学習指導要領が全面实施された2021年度も、ルーブリックを活用しながら3観点の評価を行っている。

英語科の彦田先生は、学習評価を通して、生徒から学習意欲をさらに引き出したいと考え、様々な方法を取り入れている。具体的には、各学期の最初に、学期内で評価対象とする活動と、5段階の評価基準を示した学習評価計画表(図1)を提示。パフォーマンス課題を行う单元でも、最初に課題の進め方と評価基準を提示する。

「生徒は、自分の得意・不得意を見極め、評価基準を基に目標を立てて学習を進めるようになります。英語が苦手な生徒でも、自分なりの目標を立てられるよう、評価基準の段階は細かく設定しました。例えば、教

科書暗唱では、3つ合格すればC+になります。3つなら何とか頑張れると、1段階ずつ評価を上げることが目標にして、一生懸命学習する姿が見られます」(彦田先生)

生徒には、各学期の学習評価計画表を基に、自身の評価を常に把握できるよう伝えている。自身の状況をメタ認知(巻末のキーワード解説参照)してこそ、客観的に学習を調整することができるからだ。

1年次からの持ち上がりで3年生を担当する今年度は、1学期に「話すこと[発表]」を評価する「ジェスチャー劇」と、「書くこと」を評価する「オピニオンテスト」の2つを、パフォーマンス課題として実施した。

ジェスチャー劇は、4人1組で教科書の1つのユニットを分担し、劇のように感情豊かに表現しながら朗読する課題だ。評価は、英語の発音や表現技法のほかに、「主体的に学習に取り組む態度」も対象とする。場面の意味や背景にある文化も理解し、より相手に伝わる表現にすることを目標に、4人で練習する。その過程を、A3判のプリントに記録させ、課題終了後に記述内容を見取って評価する(図

お話を聞いた方



3学年主任
彦田泰輔
ひこだ・たいすけ

英語科。同校に赴任して5年目。



校務主任
白木 圭
しらき・けい

国語科。同校に赴任して1年目。

2)。プリントの左半分は担当パートを読む際に気をつけるポイントと振り返りを記入する欄に、右半分は学習過程を記録するための余白とし、別紙に評価基準と評価基準を示した。

「課題終了後、自分がプリントに書いたことがどの評価基準に該当するか、生徒に考えさせ、①～⑩の番号を書いてから提出させました。生徒が学習内容を振り返る機会になりますし、番号を書くことで、自分が何を学んだのかをより明確に認識できるようになりました」(彦田先生)

図1 3年生 英語科 1学期の学習評価計画表

内容 基準	50問マークシート (意味)	スラスラテスト ^{*1}	教科書暗唱 ^{*2}	オピニオンテスト	ジェスチャー劇
A (5)	49 点以上	100 % (全文コースで満点)	13/9 (ユニット3 まで)	24 点以上	11 点
B+ (4)	46 点以上	88 %以上	9/9	20 点以上	9 点以上
B (3)	35 点以上	50 %以上 (穴埋めコースで満点)	5/9	13 点以上	5 点以上
C+ (2)	25 点以上	40 %以上	3/9	9 点以上	2 点以上
C (1)					

* 1 ユニットの和訳を見て、英文を書くテスト。生徒は、全文を書くコースか、空所補充問題の穴埋めコースかを選ぶ。
 * 2 分母は既習の小単元数、分子は合格した小単元数を表す。未習の小単元を予習して合格した場合に A 評価となる。
 ※旭中学校の提供資料を基に編集部で作成。

「書くこと」のオピニオンテストは、あるユニットの内容を題材にし、自分の意見を英文で書く課題だ。意見文は授業や宿題で課し、単語や表現を調べながら書く練習をする。テストでは、練習時に出した内容に類するテーマを3つのレベルで提示し、生徒に1つを選ばせるようにした。

評価項目は、意見の明確さ、単語や文法の正確性、段落構成などの5項目とし、難易度の高いテーマでは最大5点を加算。評価の合計点は、3観点すべてに充当したという。

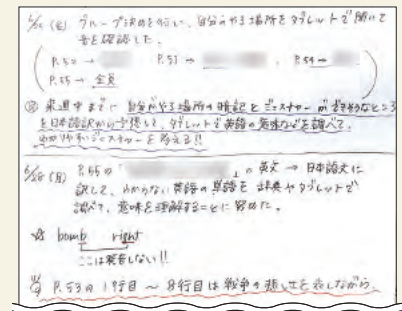
「授業中、生徒が題材について意見交換している内容を聞くと、様々な意見があり、家庭でも学習し、考えを深めている様子が見えきました。そうした自己調整力や粘り強さが意見文の完成度に反映されると考え、評価を総合的に捉えて3観点ともに対象としました」(彦田先生)

図2 3年生 英語科 ジェスチャー劇 学習記録のプリントの評価規準・評価基準(抜粋)

プリントの右半分には、次のようなことを書いてあるかを規準にして、下の表で評価する。

- ①学習目標を自分が身につけるべき目指す力として書いている。
- ②間違いの修正や書き直しが書けている。
- ③友だちとの対話や交流を学びに生かした様子を書いている。
- ④もっとよい学び方はないか考えて書いている。
- ⑤学習の計画や見通しをもって取り組んでいる様子を書いている。
- ⑥ジェスチャーや発音、表現を推敲したり(練習直したり)改善したりした様子を書いている。
- ⑦間違えたり失敗したりしても粘り強く取り組んだ様子を書いている。
- ⑧振り返りで自分の学習の成果と課題を書いている。
- ⑨自分の学習を改善する具体例を書いている。
- ⑩新たな疑問や学習課題を書いている。

▼生徒が学習過程を記録したプリント(抜粋)



基準	修正・改善	粘り強さ	主体的な取り組み
A	友だちの表現方法の工夫と比較して、場面や状況に応じて、より個性的で高度な表現の技術を発揮できているか、表現イメージを具体化できているかを自分でチェックしている。	背景にある文化に対する理解を深め、より高度な表現を工夫して、グループ全員のジェスチャー劇の表現の練り直しを粘り強く行っている。	タブレットを使って、聞き手への伝わりやすさに配慮した高度な技法を調べて、ジェスチャー劇の表現に生かしている。
B	場面や状況に応じた基本的な表現の技術を発揮できているか、表現イメージを具体化できているかを自分でチェックしている。	目的や場面、状況に応じて、教科書CDの音声を活用して、自身の表現の練り直しを粘り強く行っている。	自ら友だちと対話したり、相互評価を受けたりして、効果的な技法の個性的な活用方法を見つけようとしている。

※旭中学校の提供資料を基に編集部で作成。

英語科

定期考査の出題は「聞くこと」「読むこと」に絞る

パフォーマンス課題の実施時期は、ユニットの内容が課題として適切か、ほかの課題との兼ね合いで生徒に負担がかかりすぎないか、採点の時間の確保ができるかなどを考慮して決めている。例えば、オピニオンテストは、担当する4学級分の採点時間

が確保できるよう、1学期が始まって間もない4月末に実施した。

パフォーマンス課題で「話すこと」「書くこと」を評価することにしたため、定期考査は、「聞くこと」「読むこと」に絞り、20分間のリスニングと、大問2題の長文読解を出題した。そして、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「知識・技能」を測りつつも、「思

考・判断・表現」を測る問題を中心とした。

「知識は活用できてこそ身につくものなので、生徒には、並べ替えや空所補充など、暗記した内容を書くだけの問題は出さないことを伝え、その理由も説明しました」(彦田先生)

そのようにして評価した結果は、観点別の振り分けや重みづけなどを

彦田先生自身で設定し、表計算ソフトを用いて集計。指導要録に記載する観点別学習状況の評価と評定の決定に用いている。

なお、3年生の英語科は、彦田先生を含めた2人で8学級を担当。課題の内容や評価基準のすり合わせなど、2人で話し合いながら行っている。

「学び合いを取り入れた指導や、基準を明確にした学習評価により、多くの生徒は学習意欲が高まり、英語力も伸びています。一方で、成績下位層の生徒の学習意欲を引き出しきれないという課題もあります。できた点を認め、次の目標を示唆するなどの支援を心がけていきます」(彦田先生)

国語科

自己調整を促す中間評価 最終評価の判断材料にも

国語科の白木先生も、彦田先生と同様に、指導では生徒の学習意欲を引き出すことを重視する。年度初めに行うオリエンテーションでは、国語の学習を通じて身につけてほしい力と具体的な評価方法を説明している(図3)。

3年生を担当する今年度は、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」を評価するパフォーマンス課題を、各学期に1回ずつ実施する計画を立てた。1学期は、教科書教材の小説を批判的に読みながら、登場人物のものの見方や考え方について深く考えることをねらいとしたパフォーマンス課題を設定。小説の登場人物にインタビューするという仮想状況の下、インタビューの対話シナリオを作成する課題だ。全6時間で、個人ワークとグループワークを適宜交えながら、小説の読解から対話シナリオの完成までを行った。

「課題とした小説は、構成や描写の

図3 3年生 国語科 年度初めのオリエンテーションで生徒に示した評価計画

国語の学習を通して身につけてほしい力と評価方法について

- ①**知識・技能** 社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
※定期考査・各種小テスト・授業で配布したプリント(ワークシート)・ノートなど
- ②**思考・判断・表現** 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人とかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
※定期考査・作品・パフォーマンス(論述・レポート・スピーチ・プレゼンテーション・話し合い等)
- ③**主体的に学習に取り組む態度** 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする。また、そのような粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする。
※提出物・授業態度・学習の振り返り・ルーブリックシート(作品・パフォーマンスの内容・各自が設定した学習課題の内容・生徒同士による練り上げの活動と修正した内容・生徒による自己評価や相互評価の内容などを評価するワークシート)
※旭中学校の提供資料を基に編集部で作成。

図4 3年生 国語科 パフォーマンス課題のルーブリックシート

評価ルーブリックシート		評価者氏名()	評価者氏名()
観点	思考力、判断力、表現力等(話すこと)	思考力、判断力、表現力等(読むこと)	主体的に学習に取り組む態度
	表現・共有 精進解釈・考えの形成 A (1) のエ	精進・解釈 C (1) イ	
基準	①インタビューに適した言葉を選び、お互いの考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。	①文章の内容の適切な理解をふまえて、の魅力を豊かに引き出す質問や応答を書いている。	①ルーブリックの内容と他者の評価をふまえて、適切な課題を設定している。
中間評価	①自() ②他() ③他() ④教()	①自() ②他() ③他() ④教()	①自() ②他() ③他() ④教()
基準	②の生き方や考え方を、自分の生き方や考え方を比較しながら書き、対話の内容を深めている。	②文章から読み取った人物像をふまえて、の応答内容について推測や想像をし、対話の内容を深めている。	②設定した課題に沿ってシナリオを書き直し、より良い対話にすることができている。
中間評価	①自() ②他() ③他() ④教()	①自() ②他() ③他() ④教()	①自() ②他() ③他() ④教()
A: 十分できている B: 大体できている C: 不十分である			
改善すべき課題			
自:自己評価 他:他者評価 教:教員評価		評価規準(中間・最終)	
学習の振り返り(主体的に学習に取り組む態度)		最終評価の追加項目	
①	にインタビューするシナリオを書くことを通じて何を学びましたか。できるだけたくさん具体的に書くこと。		
A	授業を通して学習した汎用的スキルを、内容におけるものの見方・考え方の側面と、話すこと・聞くことの側面から書いている。		
B	授業を通して学習した、汎用的スキルを1つは書いている。		
②	にインタビューするシナリオを書くことをどのように学びましたか。できるだけたくさん具体的に書くこと。		
③	にインタビューするシナリオを書く中で、自分が行った良かったことは何ですか。		
A	よいことを行った具体的な学習場面と、一定の学習成果が上がったことを記述している。		
B	具体的な学習場面と、行ったよいことを記述している。		
④	今回の学習を通して学んだことは、今後の人生のどのような場面役立ちますか。具体的な場面を想定して書いてください。		
A	学習した内容を、よりよい社会生活につながるものとして、具体的な場面を生き生きと想定して、価値づけすることができている。		
B	学習した内容を、よりよい社会生活につながるものとして価値づけすることができている。		
最終評価		思考力、判断力、表現力等()	主体的に学習に取り組む態度()
		{ }年()組()番 氏名()	

ピンク色の部分は、各評価項目の評価基準。②は、途中で項目数が多いと判断し、評価項目から除外した。
※旭中学校の提供資料を基に編集部で作成。

仕方に加えて、登場人物のものの見方や考え方も示唆に富んでいます。生徒が真剣に読み、考えを深められる作品だと思い、選びました。考えを深めるためには小説を読み込むことが不可欠ですが、授業時数には限りがあります。そこで、毎時の学習課題を工夫し、生徒が家庭でも小説を読み込めるようにしました(白木先生)

評価規準は、「ルーブリックシート」(図4)に示した。「思考・判断・表現」

の評価は4項目(図4の緑枠の左段・中段)、「主体的に学習に取り組む態度」の評価は2項目(図4の緑枠の右段)に、授業の振り返り(図4のピンク枠)を加えて計5項目に設定。シートは生徒に事前に示すことで、学習意欲を引き出すことをねらった。

最終評価をつける前に中間評価を行い、教員の評価に加えて、生徒による自己評価・他者評価も行った。学習過程で自己評価と他者評価を比

図5 3年生 国語科 1学期 中間考査 記述式問題と、採点の観点・基準

問題 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(6点)

記事1と記事2の報道文が出た後、SNS上でAさんに対するコメントが書かれていた。このSNSにコメントを書くとしたら、どのようなコメントが考えられるか。100字以上160字以内で書きなさい。(記事1・2、SNSのコメントは省略)

採点の観点

SNS上の事実の正確な把握に基づかない一方的なコメントに流されず、両記事を精読し、確かな情報を基に発言することができているか。また、自分の発言が公的な場所で多くの他者に読まれることを理解して書いているか。

採点基準

- 1点：適切な言葉を使っている。ほかのコメントに対して、敵対的な表現や言葉を使っていない。
- 2点：Aさん自身が巨額の損害賠償を請求していないことを押さえている（陪審員が店の売り上げの2日分を妥当としている。また、最終的に受け取った金額は非公開で分からない）。
- 3点：加害者である店側の問題を押さえている（これまでに700件以上の同じ苦情が寄せられていたにもかかわらず、改善策を取らなかった。やけど事故の件数は、統計学的にたいしたことはないなどと反論した）。

※旭中学校の提供資料を基に編集部で作成。

較する機会を設けたのは、生徒が対話シナリオの修正の方向性に気づき、学習を調整できるようにするためだ。

「中間評価で分かった課題を踏まえて、生徒はシナリオを推敲します。試行錯誤を経た対話シナリオのレベルが高いものなら、生徒は学習の自己調整をうまくできたと言えますが、いくら頑張っても、対話シナリオのできばえが不十分なら、自己調整が十分にできたとは言えません。『主体的に学習に取り組む態度』の評価は、粘り強さと学習の自己調整の図(P.5図2)に基づいています」(白木先生)

ただし、「思考・判断・表現」の評価が伴っていないくても、生徒が各自の課題を適切に把握して一定の改善が見られた場合は、「主体的に学習に取り組む態度」の評価項目②の最終評価はB評価とした。自分が到達した点に目を向け、自己肯定感を持ってほしいからだ。

学習全体の振り返りは、授業で学んだことを、実際の生活や今後の人生で活用できるものとして落とし込めているかを見取って評価した。

国語科

定期考査は、初見の問題で「思考・判断・表現」を問う

白木先生は、定期考査で、授業で扱っていない初見の資料を課題文とする問題を出し、「思考・判断・表現」を評価している。例えば、1学期の中間考査では、2つの記事とSNSの書き込みを読み、ふさわしいコメントを書く問題(図5)を出題した。生徒に生活の中で既習事項を使える場面を意識させたいと考えており、授業で学んだ見方・考え方を活用できる問題を作成している。

また、定期考査やルーブリックシートでの記述の評価規準は、3年生の国語科を担当するもう1人の教員と相談して設定。評価に迷う場合は、都度、話し合って判断している。

「必ずもう1人の教員と相談をしながら、課題づくりをしています。実施にあたっては、生徒や教員に無理がないような方法や時期にしています」(白木先生)

2学期のパフォーマンス課題には、

生徒が自分で作成した原稿を読むスピーチを検討中だ。

「生徒1人に1台のタブレット端末が配備されたことを活用し、各自でスピーチを録画して提出させようと考えています。授業でスピーチ原稿を作成し、原稿の中身と作成過程も評価対象とする予定です」(白木先生)

評価の総括では、評価の重みづけを行う。例えば、「思考・判断・表現」の評価では、パフォーマンス課題・中間考査・期末考査で3分の1ずつに設定。「主体的に学習に取り組む態度」の評価では、ルーブリックシートの比率を高め、答えを書き写しただけの提出物は減点対象とした。そのようにして、指導要録に記載する3観点の評価と評定をつけている。

今後は、パフォーマンス課題とルーブリックによる評価を実践する校内研究を進める予定だ。この夏季休業中に愛知大学から講師を招いて研修会を開催し、2学期以降、各学年の有志が実践する。生徒の学習意欲の向上に手応えを得た白木先生が、管理職や教務主任に相談して計画した。

「1学期のパフォーマンス課題では、私の想定を超えた深い対話シナリオが見られました。それ以上にうれしかったのは、国語が苦手な生徒も含め、生徒全員が試行錯誤しながら完成度の高いシナリオをつくり上げたことです。学期に1回のパフォーマンス課題を継続して実施し、主体的に学び続ける生徒の育成を目指します」(白木先生)

Web VIEWn-express もご覧ください

ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト内の『VIEW n-express』コーナーでは、同校のルーブリックを用いて評価する「総合的な学習の時間」(感染症予防教育)を紹介する記事を掲載しています。

VIEW n-express

検索

右記の2次元コードからもアクセスできます。▶▶▶

